









































1. 景気動向

全業種で当面の問題点として「需要の停滞」をトップにあげており、本市産業界においてもデフレ経済の深刻さが窺える結果となった。一年を通して見ると業況は「きわめて不振」が全ての業種にわたって回答があり、今後も不況による先行き不透明な閉塞感が、一層強まることが懸念される。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業		
	1月～3月	4月～6月	1月～3月	4月～6月	1月～3月	4月～6月	1月～3月	4月～6月	1月～3月	4月～6月	
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	
売上高	 45	 45	 43	 22	 67	 56	 67	 58	 67	 58	
採算	 50	 65	 7	 37	 67	 67	 63	 63	 38	 46	
資金繰り	 40	 40	 37	 24	 44	 44	 54	 58	 31	 31	
業況	 55	 40	 50	 37	 78	 56	 67	 67	 38	 31	
経営上の当面する問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	請負単価の低下・上昇難		製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		小売業の進出による競争の激化		消費者ニーズの変化への対応		大企業の進出による競争の激化	
業種別コメント	年度末ということもあり、売上ではやや好転の回答割合が増加した結果となった。しかし来期の見通しでは、公共工事の予算減を反映し、悪化すると見通しが多くなっている。		新年度に向け受注が若干増加傾向にあり、来期の見通しも好転するとの回答がわずかながら増加した。石油関連商品の値上がりなどによる、厳しい経営を強いられることが予想される。		前回調査時より、好転の回答割合が若干増加したものの、依然として悪化の回答割合が占めており、厳しい業況が続いている。流通の変化により、小売業との競争の激化が新たな問題点となっている。		卒業・入学シーズンにかかわらず、前回よりも悪化の結果となった。大きな要因として需要の停滞に加えて購買力の他地域への流出がほぼ同数の回答があり、地元購買の減少が顕著になっている。		新年会、歓送迎会の時期であったが、企業などの歓送迎会などの減少によるものが大きいと思われる。前回は問題に入っていないなかった『需要の停滞』が再びトップになるなど不況による経営の圧迫が進んでいる事が伺える。		

*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調(50 DI)	好調(25 DI<50)	まあまあ(0 DI<25)	不振(25 DI<0)	きわめて不振(DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。